



HUG
NET だより

NO. 3

2017.2月

瀬戸子育て連絡会

HUG NET(はぐ・ねっと)

栄木房子 0561-48-3991(tel/fax)

祖東中近く東公園に
862名予定

不安がいっぱい

小中一貫校 計画中!!

瀬戸市は、2020年4月開校予定で、2中学校(本山中、祖東中)と小学校(道泉、深川、祖母懐、古瀬戸、東明)を統廃合して862名入学予定のマンモス小中一貫校開設の計画を立てています。

住民の声が十分に反映されているとは言えないこの計画に該当地域をはじめ、瀬戸市や近隣の住民は、不安をかかえています。何よりも子ども目線に立って考えようと学習会や見直しを求める請願署名活動に取り組んでいます。

学習会

12/18

学校は地域の宝～

学校統廃合・小中一貫校は、
子どもにとって本当にいいの？

12/18日曜日14時～瀬戸市文化センター三階和室にて、名大の中嶋哲彦先生が「学校は地域の宝～学校統廃合・小中一貫校は子どもにとって本当にいいの？～」と題して、お話されました。先生は、学習会が始まる前、一貫校になる地域を汗だくで歩いてこられたとお聞きし、なんて心の熱い方だろうと感銘しました。

統廃合の地域の方、教職員、保護者を含め、30名以上の参加でした。

この計画のシナリオは、こうです。総務省の勧める財政削減の一貫で、全国で限定二つのモデルのうちの一つに、瀬戸市が立候補したことに始まります。在籍人数が少なく一人あたりのコストの高い小学校5つと中学校2つの統廃合計画です。

降って湧いた計画に、地元では反対運動が起こっています。瀬戸市は、もう決まったことだと言わんばかりに、教育長専決事項のように市議会で議論することなく粛々と進められています。

そもそも、地域に学校がなくなるということは、その地域に人が集まらず、廃れていくということ。学区が広いため、養護学校のようにスクールバスを走らせるようですが、必ずそうするとは、まだ断言していません。

通学は、適当な距離を、町の景色を眺め、町の人たちに声をかけられ、友達と話しながら歩いていくもの。歩きたければ、スクールバスを途中で降りればよいとも言っているとか。

中1ギャップという言葉を知りました。しかし、それをなくすために統合するのは問題の先送りです。人生は竹のようなしっかりした節目があるからこそ、健やかに育ってゆけるのです。積んでいくのではなく、もともと繋がっているです。

政府の真のねらいは、より良い教育の実現とは表向きで、いかにして住民運動を押さえつけて統廃合するという全国モデルを作ることなのだと。

一貫校で、小学校の授業に入ることになる中学校教員、例えば英語科にとっては、これまで以上に仕事量が急増、不本意で手抜きになるかも。

一貫校になると、22人も教職員が減ってしまう。市の財政的にはとても美味くなる。

たとえ学区内でも、希望しない場合には他の学校を選択できることの保証が必要。



お話の後、質問や意見が出て、先生がコメントしました。

・一貫校について、市議員たちに公開質問状を出すということはよいが、出す前に議員たちにしっかり学習させることがより良い回答につながるので、工夫が必要。

・学力向上や習熟度別のため、4-3-2制にすると。普通の習熟度別学習とは、各単元の最終で必要。次の単元になればまた元に戻す。クラスに固定するということは、習熟度ではなく、能力別学習である。

・教育長の専決事項になっていると議題に上がらず危ない。一貫校計画には、教育委員会まかせではなく、市議会ですっかりと議論した上で条例として決めるべきこと。

・跡地の利用は耐震性の問題もあり、不可能に近いと思われます。

先生は強調されました。「もしも本当に良いことだったら、全国あちこちで始まっているはず。今さら計画を撤回することは残念ながら難しいかもしれませんが、私たちの意見を届けて、少しでも修正させ、より良い教育の実現を迫っていくことが大切です。よくわからないうちに勝手に決まっていたというのではつまらない。一貫校ほ、一地域の問題ではなく瀬戸市全体の問題として、私たちがより多くの市民に伝えていくことが急務です。共に学び、共に運動しましょう。」

(元県立学校教員・新井英文)

シンポジウム

17年2月5日深川公民館

学校は 地域の宝 地域の絆

統廃合で地域に学校がなくなったり、小中学校を一緒にする教育って、子ども・住民にとって本当にいいの？

シンポジウム「学校は地域の宝、地域の絆」～統廃合で地域に学校がなくなったり、小中学校を一緒にする教育って、子ども・住民にとって本当にいいの？

2017.2/5日曜日の午後、深川公民館にて、超満席で、愛工大の川口洋准教授のコーディネートで、まず最初に、①道泉学校を守る会について加藤さん、②古瀬戸の現状と新城の統廃合の実態について岡田さん、③深川小学校PTAの取り組みについて佐藤さん、④議会での計画の計画と内容と今後について市議員の浅井さんから発表がありました。

それを受けて、会場から質問も含めて発言がありました。

超大規模校の西陵小学校で個性を潰されたくないの、選択制を利用して住民票を移して超小規模校掛川小学校を選んだ、掛川も危ないと思ってさっそく掛川の校長に署名をお願いしたら、教職員はできないと断られた(市長や教育長は掛川には手をつけないと私に言ったから大丈夫だと→単なる口約束？信用できない)

母校の道泉小学校に子どもを通わせたいと新築したのに学校がなくなったら困る。

住民に十分な説明が無いのに計画を進めるのはおかしい。

若い人や教職員の参加が少ないのは残念で不安。

町作りの展望がないままの統廃合はおかしい。

厚労省の保育や介護では小規模化が進んでいるのに、文科省の教育では真逆の大規模化、ちぐはぐではないか。

まとめとして、日本福祉大学の山口教授から、問われる学校統廃合の・小中一貫校の課題、その課題に向き合う住民と自治体の事例、問われる瀬戸市の課題等について提言がありました。

現在では、アメリカの小学校では、20人クラス、全校200人が標準。日本でも、研究学者の間では、全校100人以下のsmallサイズのがよいとされている。

今回の瀬戸市の計画(2020年4月開校予定)では、小中合わせて800人以上という極めて大規模な学校となる。教職員は、現在より20人以上の人員費削減となる。

12年前に始まった隣接学区選択制は一年以上議論した。これは小規模校を作って廃校にするのが目的であったが、思うようにばらつきが出なかった。それを受けて出てきた今回の計画なのに、さらに短期間で決めようとしている。

子どもにとって何が幸せなのかという議論が大切。

行政は、オープンな説明と対象外の地域も含めて条件整備をすること。

住民・保護者は、意見表明、選択、参加。

教職員は、意見表明と発信。

最後に、請願署名の代表者・伊藤さんから、計画撤回は撤回できないかもしれないけど、大人として何もしなかったと言われないように大人は頑張ろうと。

とても元気がもらえる学習会でした。

追伸・私は個人的に、どうしても小中一貫校をやりたいなら、目先を変えて、卒業後に高蔵寺や多治見の中学校に行かざるを得なくなっている掛川小学校をそうしてほしいと思いました。

(元県立学校教員・新井英文)

演題

「小中一貫校問題とは何か？」



講師 和光大学教授 山本由美先生

学力テスト問題、学校選択制、学校統廃合、小中一貫教育など、現代の新自由主義教育改革を批判的に調査、研究を続け、その子どもに与えるダメージについても、各地の実態を丹念に聴きとりながら、多くの著書をまとめておられます。「小中一貫教育」「小中一貫校」の実態や本質、政府や行政が協力に進めようとする、その本質を分かりやすく各地で講演されています。

日時：3月26日(日)午後1時半から

場所：瀬戸市文化センター31会議室

※入場は無料ですが、当日カンパにご協力をお願い致します。

連絡先 学校統廃合と小中一貫校を考える瀬戸市民の会

事務局 原田 090-3564-8765